



第367号 平成21年2月1日
発行所 京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601-1 こどもみらい館 2階
TEL (075) 256-0351
FAX (075) 241-3568
発行人 長村吉朗

MR 3期の集団接種への協力のお願い

会長 長村吉朗

来年度よりのMR 3期が京都市立中学校において集団接種されることが、京都市と学校医会と市医会との間で合意されました。このことに関しては新年号において林専務理事がすでに報告していただいており、内容も重なることと思いますが、この文章を書いている時点は12月のため、お許しください。12月の時点で、早くも二人の会員から「来年から集団接種をするらしいな」とのおたずねがありました。お二人には、別に秘密にしないと話がつぶれるとかというような問題でもないため、その時点でわかっていることをお伝えし、同時に集団接種に関わる問題点などに關してもお聞きいたしました。会員の先生方におかれましては、これから記載いたします接種の流れにつき何か問題点にお気づきの点があれば、お知らせいただきますようお願いいたします。

実施校は原則として京都市立中学校すべてで、対象は京都市に住民票のある、中学1年の年齢にあるものです。そのため、私立学校や京都市外の学校に通っている者や総合支援学校に在籍している者は、今回の集団接種からは外れることとなります。それぞれの中学校には、既に1月末を期限として来年度の集団接種の希望日を提出するようになっています。それを元に保健医療課が各行政区ごとに重ならないように日程を調整決定します。これは実施に当たり保健所の協力が必要なためで、各保健所では同時に2カ所への人員の派遣が困難なためです。この文章が皆様方の元に届けられる頃には実施日程が決定されていることと思いますが、決定次第できるだけ早くお知らせしたいと考えております。日程が決定された後保健医療課から学校医会と市医会の会員に出

動のアンケートが送られ、それを元に出動医が決定されます。医師の数は在籍児童の数によって事前に決められており、120名の対象者の場合医師は3名となります。出動医は所属する行政区ごとにその地区に在籍する会員から募集され、うまく調整できない場合は学校医会と市医会で協議いたします。集団接種の実施時期は4月から7月と計画されていますが、4・5月は定期検診などで日程がとれないと思われ、6・7月に集中すると思われます。時間は午後1時半開始で、3時半には終了する予定です。3名一組で2名が診察、1名が接種に当たるという方法と、一人一人が診察から接種まで行う方法の両方が学校により選択されます。中学校の数は伏見区の14校、右京区11校、西京区8校、左京区8校、中京区7校、山科区6校、北区5校、南区5校、上京区4校、東山区3校、下京区2校、計73校で、生徒数はおよそ10,000人、出動医師数はのべ300名余りです。学校医会の会員が全員参加していただければ、一人1回の出動でほぼまかなえる計算となります。なにとぞご協力のほどよろしくお願いします。(協力願える方は1回だけでなく、複数回のご協力をお願いいいたします)

以上MR 3期の集団接種に関し概略を記載いたしましたが、私には少し不満があります。多くの会員に協力いただき、また学校現場に多大の負担をかけるにもかかわらず、保健医療課は個別接種より遙かに出費が抑えられる分の一部でも子どもたちや学校側に還元しようとしないことです。高校生の1・2年生において海外に研修旅行に行く場合、事前に麻疹の予防接種を受けるよう指導がなされています。

これらの生徒は、3年になれば4期の接種が無料で受けられるにもかかわらず自費で予防接種を受けることになるのです。この分を前倒し接種とし公費補助を行ってほしいと再三申し入れているのに、「家族でハワイなど海外に行くものと比べて不公平になる」と訳のわからない理由で認めようとしないのです。またMR2期の開始時に周知が十分できていな

かったため未接種となってしまった子どもたち(3人に1人になります)に対する救済措置もとられて当然と考えておりますが、それに対しても全く積極的な動きが見られません。私は、今回の集団接種によって浮いた費用の少なくともその一部は、これらの施策のために使われるべきと考えていますが、間違った考えでしょうか。

エピペンの学校における使用についての日本医師会の見解

会長 長村吉朗

エピペンの使用に関する近畿医師会連合の質問に対する日本医師会の回答が参りましたので、原文のまま掲載いたします。なお、この文章の中の本会という表現は日本医師会を指すものと考えます。又近医連の質問はエピペンに関してだけでなく、アレルギー疾患管理指導表に関するものも含まれているた

め一部意味が分かりにくいところがあります。平成20年度に日本学校保健会より提示されましたアレルギー疾患管理指導表に関しては、その扱いに苦慮しているところであります、今後府医との協議を重ねたうえで出来るだけ早い段階でご報告したいと考えております。

近畿医師会連合からの学校保健に関する要望について

1. 日本学校保健会「学校のアレルギー疾患に対する取組みガイドライン」の取り扱いについて（質問）

注：枠内のコメントは、文部科学省の見解として得たものであり、本会にて医師法を担当する医事法制課に内容の確認を取った結果、妥当な内容であるとの見解を得ている。

1) ガイドライン中の表現は、その判断の責任の所在も不明であり、法的効力はないと思われるがいかがか。

→確かにこのガイドラインは公文書ではありませんので、この記載によって、エピペン使用者について法的に免責が保証されたわけではありません。

2) エピペンを登校時に毎日持たせること、また、学校で預かるとすると、その保管の問題、紛失などの責任問題は学校に帰属するものとも考えられるがいかがか。

→学校が預かるとなると学校にも責任が生じます。エピペンを学校が管理すること自体は法律上問題ありません。しかし、紛失した場合は学校の責任が問われる可能性はあります。

3) アナフィラキシーの救急の現場に居合わせた教職員が即座にアナフィラキシーかどうかの判断をすることは非常に困難と考えられる。また、エピペンの使用については、処方する医師に対しても講習を義務づけられており、医師が直接患児や保護者に十分な説明をしていましたとしても、とっさの使用は困難を極め、正確に使用できるかどうかは疑問。十分な教育を受けていない教職員が上手く注射が出来なくて死亡した場合、また、注射すべきなのに注射しなかったために結果として死亡した場合の対応、責任はどうなるのか。

→確かに初発のアナフィラキシーショックが学校現場で生じた場合、専門知識のない教職員がそれをアナフィラキシーショックと判断し、エピペンを注射することは困難と考えられます。

そのような場合はエピペンを使用するか迷うより、救急車を呼ぶ等の一般的な救急対応をまず行うべきです。しかし、すでにアナフィラキシーショックの既往がある児童生徒が、ショックを起こす原因物質に接触したと思われるエピソードがあり、実際にその場に倒れている場合、その児童生徒がアナフィラキシーショックの既往があることを知っている教職員はエピペンを注射するべきと思われます。その場合、たとえエピペンの注射がうまくいかなくて思わしくない結果になつたとしても、その教職員の責任が問われることはないとと思われます。しかし、このような状況の時にエピペンを注射しなかった場合、むしろその教職員は「行うべきことを行わなかった」として責任を問われる可能性はありえると思われます。

(本会としての補足)

本会として補足するならば、本会としても、児童生徒がアナフィラキシーショックに陥り、児童生徒本人がエピペンの注射が困難であり教職員による対応が必要となるケースは、あり得ると考えている。取組みガイドラインにもあるとおり、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、「エピペン」の取り扱いについて、①保護者・本人、②教職員・教育委員会、③主治医・学校医・学校薬剤師の3者が、緊密な情報交換を行い、アレルギー疾患をもつ子どもの管理に対する理解を相互に深めることが求められる。こうした協議に、学校医も積極的に関与するべきであると考える。

第28回京都市小学生駅伝競走記録会に出務しました。

常任理事 福持 裕

平成20年12月7日日曜日に開催されました第28回京都市小学生駅伝競走記録会に、長村吉朗会長とともに医務担当として出務しましたので、報告いたします。

記録会は例年のごとく鴨川・出雲橋・葵橋周回コースで行われました。平成20年度の参加校数は122校、参加の児童数は、男子が278名、女子が203名、合計481名でした。午前9時過ぎに開会式が行われ、午前10時過ぎに午前の部が、午後0時10分頃から午後



の部がスタートしました。当日は、12月上旬にしては日差しが暖かく感じられる、ほとんど雲ひとつない快晴に恵まれました。そのためか、当日医務を訪れた児童は幸いなことにわずか2名でした。そのうち1名は競技中に転倒して四肢に擦過傷を負ったもので、もう1名は応援の移動中に転倒してのやはり四肢の擦過傷でした。それ以外には、記録会以前から受傷していた患部に対して、バンドエイドや絆創膏を提供した例が数名ありました。競技前、競技中や競技終了後にも、特に体調不良を訴える選手や記録会関係者もなく、無事終了しました。

記録会は第28回であり、極めてスムースに滞りなく進められたようです。ただ、例年設置される簡易トイレが、鴨川河川敷の改修工事のため設置することができず、その結果河川敷の公衆トイレに長い列ができていたのが、選手や応援の児童、記録会関係者、応援の家族には不便で気の毒でした。

12月に入った時季でしたが、まだ残っている秋の趣きを味わいながら、鴨川河川敷を北にさらに北山通のイチョウの並木道を散策しつつ帰宅しました。

第28回京都市小学生持久走記録会

専務理事 林 鐘 声

平成21年1月18日(日)、小学6年生1957名(男163名、女794名)のエントリーのもと、開会式に引き続いて9時30分より競技は開催されました。長村会長と私が医務班として出勤しましたので報告します。

どんよりとした鈍色の空、微風、気温4-6℃、日射しではなく、昼からの雨の予報にたがわず、閉会式の時に小雨が降り出しましたが、この季節としてはまざまずでした。

鴨川河川敷西側をスタートして、南へ向い葵橋を渡り、東側を北上し出雲路橋を西へ渡り、再び西側に降りてゴールに至る約1700mのコースで、河川敷の工事のため例年より橋1つ南へ移したコースとなりました。

男子は32組(1組36~37名)、女子は26組(1組30~31名)、7分毎の遂次スタートで走るようになっていました。医務テントの前の女子のスタートを見る限り、1組は24~26名の組ばかりで、その事情は男子でも同様と考えられ、実際はエントリーの80~85%の参加ではなかったでしょうか。もっぱら感染性胃腸炎やインフルエンザの流行のために棄権がでたものと推察しています。

医務テントを訪れたのは12名(男6名、女6名)。外傷は6名(男5名、女1名)で、開始早々の10時~10時26分までに訪れており、左膝外傷が共通していました。出雲路橋西詰から河川敷へ降りる時に転倒し、倒れる方向まで共通していたことによるものでしょう。走路状態は良好でしたが、唯一、この地点が滑り易いことが心配され、前もって砂をまくことで対処していたものの効奏しなかったものです。10時26分以降来なくなったのは、このことを踏まえて、スタート時に注意を改めて促がしたこと、問題の地点での走路員による注意を徹底したことによるようです。

出走を棄権したのは3名で、いずれも女子、低体温、発熱、咽頭痛を訴えていました。完走後に腹痛、低体温を訴えたのは男女とも1名で、医務テント内

で安静、加温をすることで改善が認められました。

他に、葵橋の上で左足が轢いたとして走行を止めた女子がいました。走路員はその子のことは確認していたものの、医務班までにはその報告は届きませんでした。現場で大丈夫との判断があったものとは思いますが、戻ってこないのはどうしたものかという疑問が挙がり、橋の所にいるとの情報をもとに医務班が迎えに行って医務テントに来たのはスタートして40分ほど経過していました。歩いて来れる状態で、その時には特に所見は見当りませんでした。走路員が棄権を確認したなら、本人の状況がいくら心配のないものであっても、本部への連絡、医務班への連絡は遺漏のないようにするべきであったと思います。過去にも、咳嗽や疲労を理由に途中棄権例はありましたが、速やかな連絡とともに、附き添いとともに医務テントへ来ていたと思います。

いつものことながら、女子トイレ数が少なく長蛇の列となり、なかには出場時間に間に合わなかったということもあったように聞いています。寒い時期、また走る前にトイレに行っておきたいというのはよく分かるだけに、施設は限られていることを理解させる事前の指導の徹底を望みます。

勉強や運動の中でも個人間のつながりが薄れるばかりか、相手を引きずり落すようなことも見聞するなかで、この競技会に参加していくいつも思うことは、互いに声援を送り仲間意識が強く感じられる点が、頼もしくもうれしくもあり、京都市の小学生、“捨てたもんやあらへんで”ということです。



第23回大文字駅伝大会

会長 長村吉朗

2月8日、京都の冬の風物詩の一つとなった感のある、第23回京都市小学校大文字駅伝大会が都大路を会場に開催されました。雲は少しあるもの、絶好の駅伝日和の下での開催となりました。大会の結果は1位柊野、2位嵯峨野、3位久我の杜、4位樫原、5位深草、6位修学院、7位御所南、8位向島南、9位附属京都、10位桃山と、いずれも1時間を切る好タイムと接戦の大会でした。また、今回私が担当したのはスタート地点のため特にけが人などは発生しませんでしたが、大会全体でも走った後気分が悪くなり、念のため医務車で運ばれた子どもが1名のみでした。

今年も出場者の心臓検診の際に整形外科医会の全面的な協力を得て運動器検診を実施いたしました。初めての時には痛みなどの訴えのある児童が50%を超える盛況でしたが、3回目となる今回は訴えも落ち着き30%程度の児童が整形外科検診を受けました。今年も専門医受診を勧められる選手はいましたが、ドクターストップは出ることなく終了いたしました。今後も整形外科医会と協力し、子ども達の安全と健康に配慮した指導と事前検診体制の確立の努力していきたいと考えております。

さて大文字駅伝に話を戻しますが、例年14名の医務班には学校医会の理事が多く出ていましたが、7年前より出場校の学校医に参加を呼びかけるようにいたしましたところ多くの賛同者を得、今回も理

事はわずかな参加で済むほどとなりました。出務していただきました先生をご報告いたします。太田和夫(本部)、長村吉朗(スタート)、坂田耕一(第1中継所)、諸岡憲(第2)、八田一郎(第3)、福持裕(第4)、山口陽弘(第5)、伊藤あゆ子(第6)、小西正昭(第7)、橋本文久(第8)、請田修一(第9)、奥村正治(フィニッシュ)、旭研志(医務車)、林鐘声(救急車)。本当に有り難うございました。そして来年こそは医務班に出て、その熱気を直接感じたいという先生方がおられましたら、地区予選が終了する11月頃には出務医を決定いたしますのでそれまでに事務局までご連絡下さい。

最後に第23回大文字駅伝大会の出場50校をナンバーカード順に記載いたします。なお()内はこれまでの出場回数です。柊野(11)、大宮(7)、紫明(初)、金閣(13)、京極(3)、西陣中央(2)、御所南(13)、朱雀第三(12)、朱雀第四(13)、洛央(11)、淳風(3)、東和(6)、祥豊(4)、大藪(11)、明徳(16)、岩倉南(10)、北白川(初)、下鴨(3)、修学院(16)、白川(3)、今熊野(5)、山階(6)、勧修(6)、百々(11)、大宅(8)、嵯峨(15)、嵯峨野(14)、御室(8)、太秦(21)、南太秦(8)、安井(6)、西院(12)、樫原(10)、松尾(8)、桂(4)、桂徳(12)、大枝(初)、桂坂(11)、深草(8)、砂川(5)、桃山(11)、春日野(11)、北醍醐(5)、下鳥羽(6)、向島南(12)、久我の杜(13)、羽束師(10)、フレンズ(7)、附属京都(8)、京都朝鮮(11)

京都府医師会指定学校医制度 単位取得研修会のお知らせ

平成21校医・小児科医感染症講演会

講演：思春期の性とエイズ

(社)地域医療振興会ヘルスプロモーション研究センター長

厚木市立病院泌尿器科 岩室 紳也 氏

情報提供：MR(3期)の集団接種についての経過説明

京都市学校医会 専務理事 林 鐘声 氏

開催日 平成21年3月7日(土) 午後4時～6時

会場 京都全日空ホテル 2F 平安の間 (中京区堀川通二条城前 TEL 231-1155)

第22回京都府眼科学校医研修会（1単位認定）

- 講演：①外眼部、眼表面からみた子供の眼疾患 京都府立医科大学眼科 准教授 横井 則彦 氏
②京都府眼科学校医会から色覚DVDについて 京都府眼科学校医会 副会長 新井 真理 氏
③プライバシーに配慮した学校検診 京都府眼科学校医会 幹事 沼 朝代 氏

開催日 平成21年3月7日（土）午後3時～6時

会場 ハートピア京都（中京区竹屋町通烏丸東入ル TEL 222-1777）

府医学術講演会

- 講演：①薬剤による皮膚アレルギーについて

関西医大 名誉教授 聖護院皮膚科クリニック 院長 堀尾 武 氏

- ②学校検診の歴史的経緯から見た運動器検診の必要性

京都府医師会学校保健委員会 委員長 福田小児科医院 院長 福田 潤 氏

- ③発育期の運動器の障害と学校運動器検診の意義

東京大学大学院教育学研究科身体教育学講座 教授 武藤 芳照 氏

開催日 平成21年3月28日（土）午後2時30分～5時30分

他1題

会場 京都府医師会館（中京区壬生東高田町1-9 TEL 075-312-3671）

上記以外の単位取得講演会等の日程

21.3.12	京都府医師会学校医部会総会	京都府医師会館	2:30 (中京区壬生東高田町1-9)	TEL 075-312-3671)
21.3.14	京都府医師会新任学校医研修会	京都府医師会館	3:00 (中京区壬生東高田町1-9)	TEL 075-312-3671)
21.3.26	京都市学校医会新任学校医研修会	こどもみらい館	2:00 (中京区間之町通竹屋町下ル楠町601-1)	TEL 075-256-0351)
21.3.28	京都整形外科医会・京都府医師会講演会	京都府医師会館	2:30 (中京区壬生東高田町1-9)	TEL 075-312-3671)

第9回 常任理事会

平成21年2月7日

於 事務局

出席者 長村会長、奥村・平位副会長、林専務理事、
井上・藤田・廬原・福持・井本・大久保各
常任理事、佐野眼科学校医会副会長、星谷
耳鼻咽喉科専門医会理事

・会長挨拶

<報告事項>

- スクールヘルスリーダー派遣事業打ち合わせ会
1/14 3回目の打合せ会
着任3年までの養護教諭のスキルアップ事業
- 京都市小学生持久走記録会 1/18
今月号参照
- 腎臓相談 1/20 2/3 各2名
- 人づくり21世紀委員会「平成20年度第3回幹事会」1/23
- 色覚相談 1/27 2名(市内) 新井先生が日本眼科医会の色覚事後措置委員に選任
- 保健調査票打ち合わせ会 1/27
22年度より本実施 21年度は予備的実施

<協議事項>

- 全理事会について 4月9日(木) 2:00pm～
- 京都市養護教育研究会ホームページリンクについて
- 会員異動について
- 仮決算について
- 送料について 配送業者の変更
- インフルエンザ感染状況について
京都市内の学校でも学級閉鎖
- その他
指定学校医制度：私立・国立の学校医の単位取得状況の確認について
MR集団接種について

<関連学会・各種協議>

- 京都府医師会新春賀詞交歓会 2/7
リーガロイヤルホテル 長村出席
- 色覚相談 2/10 2/24
- 精神衛生研究会 2/12
- 腎臓相談 2/17
- 京都府医師会学校医部会園医協議会幹事会
2/19 2:30pm 府医会館
- ワンポイント相談 2/26
- 第10回常任理事会 3/7 1:30pm～